

for Adult



Antinomy



Antinomy

お前とずっと
こうしたかったんだ
……

お前……

ん……

お前……

お前……

お前……

お前……

おまえの瞳内に
セーラーがイナナス
……

浅井……んんん……

浅井くん
おねがい？
美奈子って……

浅井くん……

Antinomy

あら…
まだ立てるの？

子供はもう
寝る時間よ
ヴェーナス？

……

ふさげないで
……

ぐっ……！

あと少しよ…
みんなが来るまで
私一人で
持ち堪えないと……！

フツ…たった一人で
私を倒せるのかも
思っているの？

す…

少しはお勉強
した方が
良さそうね...!

おやお...!

おおお...!



いっのめ
いっ降参ごんせ
ん...

いっ...!

いっ...!

まだ
これからよ!

みんな...

どうして
来てくれないの?

いっ...





私が一人で
知っている事は
知っているはずなのに
……！

みんな！
敵が
現れたわよ！

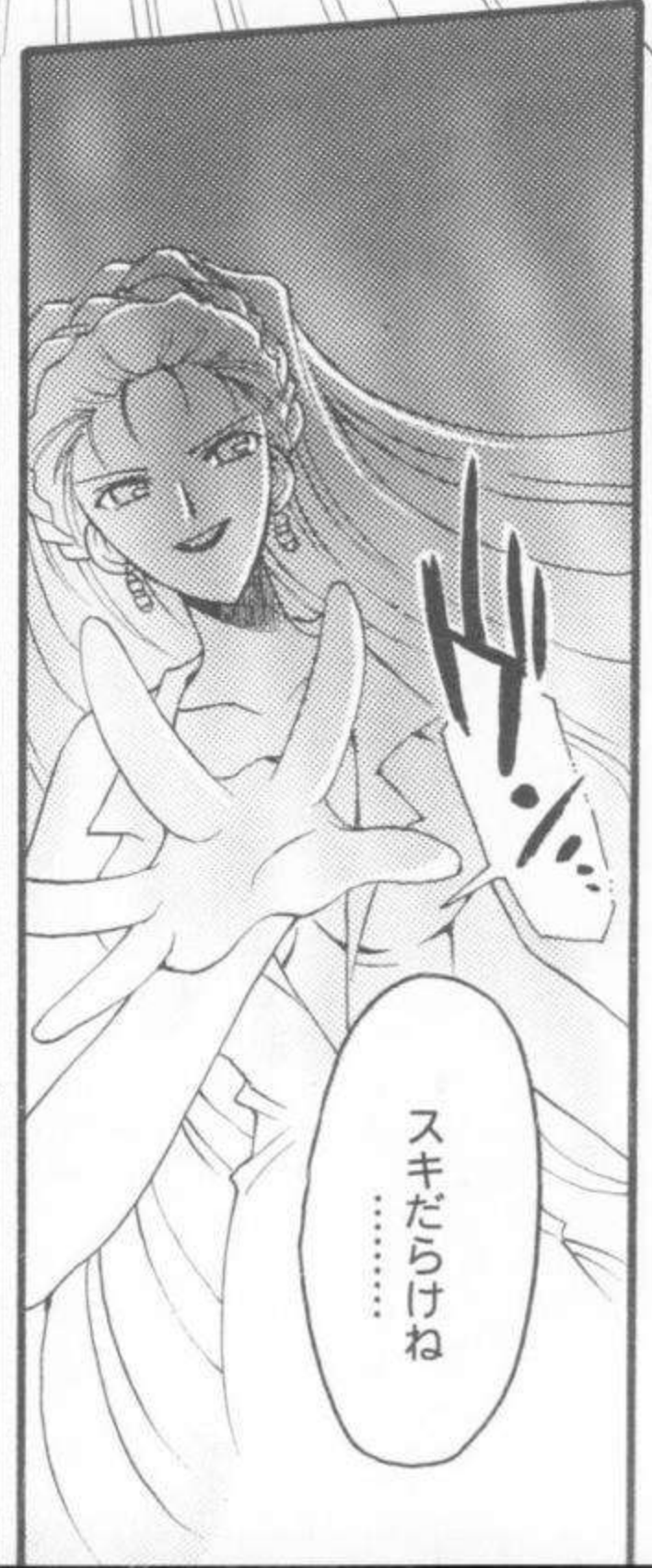
ヴィーナス
ラブミー
チェーイン！

いいえ……
きっと助けに
来るはずよ……

いつもみたいに
……！



ああ……！



スキだらけね
……

クッ
クッ!

馬鹿な娘…
ひとりで敵の懐に
飛び込んでくるなんて
………

クッ
クッ!
クッ
クッ!

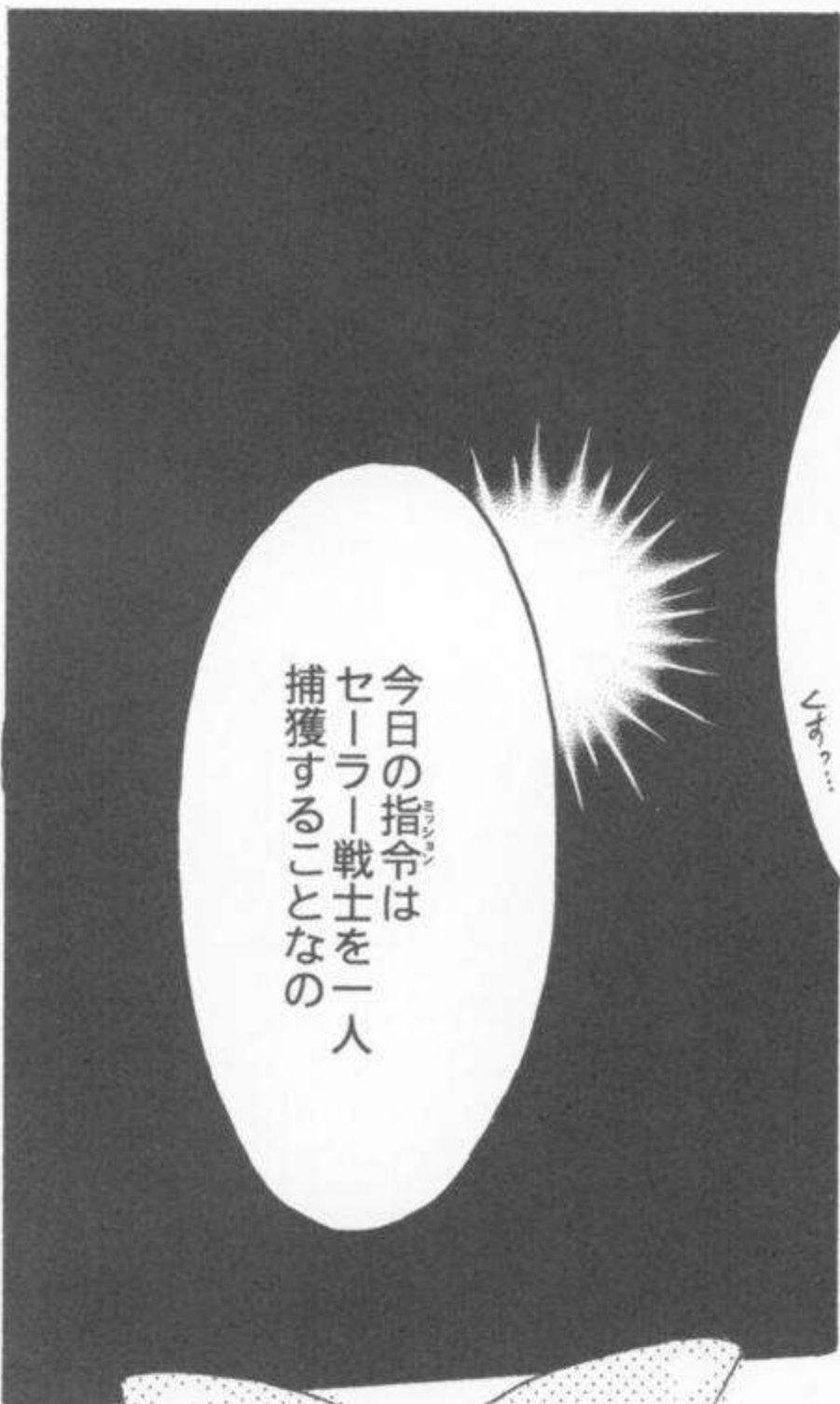
クッ
クッ!

あぐあぐ…っ—

?!

でも…都合だわ

クッ
クッ!



今日の指令は
セーラー戦士を一人
捕獲することなの



なっ…
何を…?!

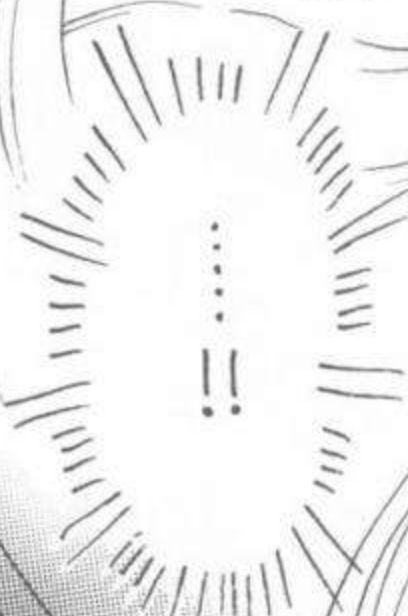
ふふっ…お薬を
ちよっとね…

くまっ…

ドホッ…
フホッ…



私達の研究室で
あなたの戦士の身体…
たっぷり調べさせて
もらおうわ



場合によっては少し
改造させてもらうかも
知れないわね…

あなたが
私達のために
働きたくなる様に

何ですって…
?!

冗談じゃないわ
!

あ…あなたの
思い通りに
なんかさせない…!



な...なんて
かなの...?!



ギィッ!!

o.

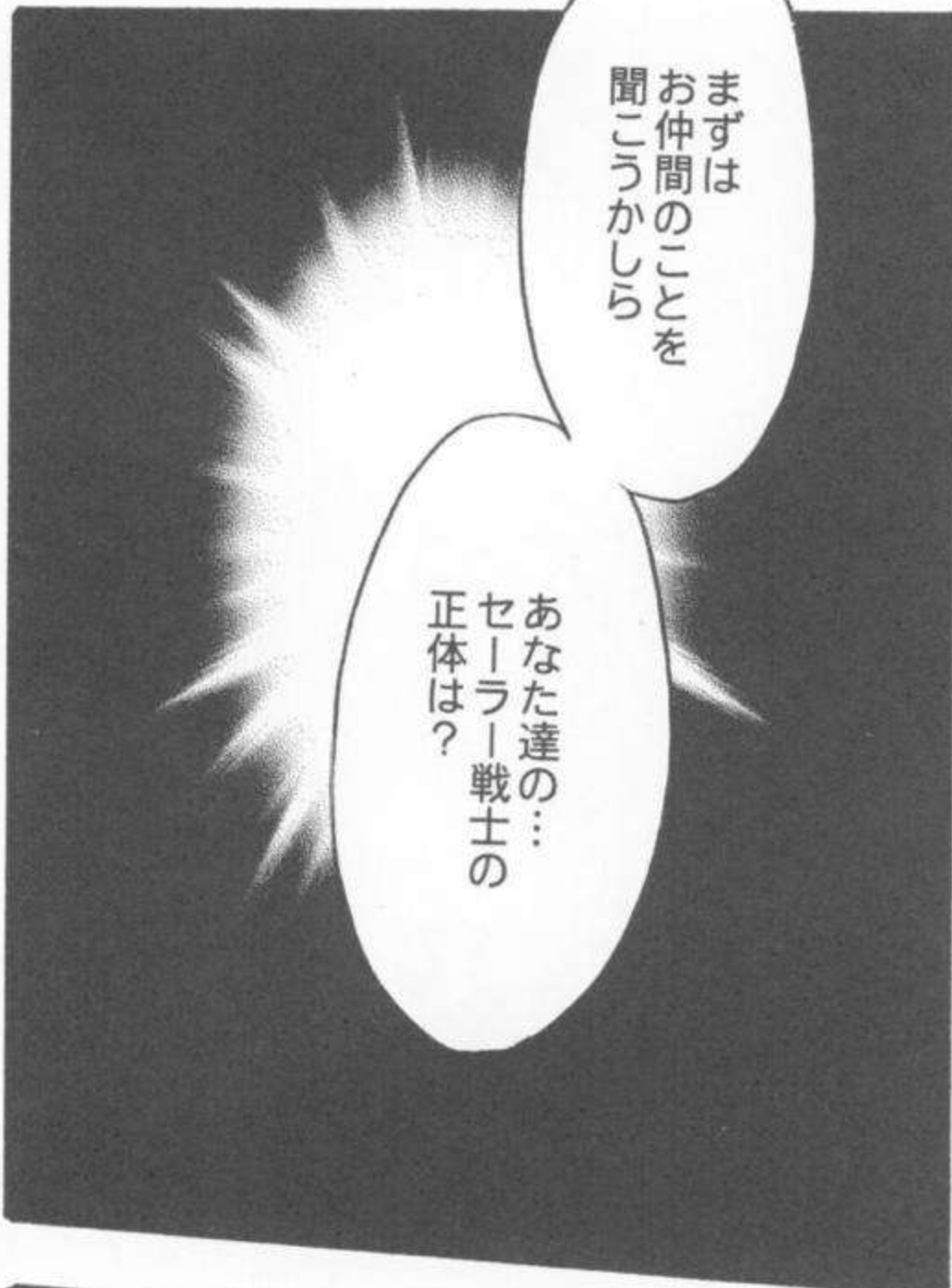
恨むのなら
一向に助けに来ない
あなたのお仲間を
恨む事ね.....



あな...い...いやあ...!!



あなたみたいなの
強情な娘には...
下の口にもお薬を
あげないとね...



まずは
お仲間のことを
聞こうかしら

あなた達の…
セーラー戦士の
正体は？



やい…いやあつ
やめて…つ！

ヒタヒタ



い…言えないわ
そんな…こと…

冷たいのに
膺内が熱くて
おかしくなりそう…

言…

私…
感…
じてるの？

ひああ…っ





こんな目に見捨てたお仲間を
まだ庇うつもり？

うま...

ひ...ひどいわ
そんな事...!!

ミロオ...

お...お...
あ...

仕方ないわね...
お仲間のことは
勘弁してあげるわ

そのかわり
あなたの正体だけは
教えてもらおうわよ



言えるわよね？
自分の名前くらい
.....!!

ギタギタ...

ぐああ...ああ...

ほら…
これを見て

凄いでしょう…？
もしあなたが
言うことを聞いたら
これをあげるわ…

え…？

ちゅ…ちゅ…

どう…？
挿れて欲しい？

欲しい…

でも…私は
セーラー戦士…
敵に服従する
わけにはいかない…

ほらっ
言っのよー

いぢめっ…



びん...!

ひああんっ...

おん...
おん...!

い...っ
言...おあ...

い...!

おん...

わ...私の
名前は...っ!

おん...
おん...

だ...ダメ...っ
私達の名前は
絶対に秘密なの!



びん...おあ...っ

でも...誰も
助けに来てくれない
んだもん...!

びん...
びん...

名前は
...?

うああっ...
あああ...っ!

おん...
おん...



お母...っ

ぐあぁっ...

アメの次は
ムチも味わって
もらわないとね
.....



ひびき...こー

ズッ

ズッ

ズッ

ズッ

ズッ

だってあなた
言う事を聞かない
悪い娘ですもの...



フフツ
苦しいわね
グイーナス?

こっ...
殺されるっ
.....!

ズッ

ギョッ

そろそろ言わないと
あなた
死んじゃうかもね？

い...
いやあ...

ぐ...ああ...
!!

ひああ...
!

さあ...聞かせて？
あなたの名前を
.....

みんな...
ごめんなさい...

もう...
耐えられない...

わ...私の
なまえは...っ！

あ...あい...

待ちなすー！

ヴィーナスにそれ以上
酷いことしたら
許さないんだから！

セーラー…ムーン
……？

みんな…
！！

フフッ…
命拾いたようね
ヴィーナス…



セーラー戦士共
勝負は次に
預けておくわ!



あつ…
ヴィーナスが
気がついたわよ!



みんな…
どうしてすぐに
来てくれなかったの？

それって…戦士の使命より
自分の生活の方を
優先してるって
事じゃないの…？

悪かったよ…
前の学校の子達と
偶然会っちゃって…
変身できなかったんだ
……

私は…いつも
使命を第一に
戦っているのに…

そうなの…

ご…ごめんなさい
ヴィーナス…
予備校の自習室で
先生が一緒だったから
……





もう…みんな
仕方ないわね

今度だけよ
?

えーっ★
まさかマーズも今日
雄一郎さんと…っ?

しーっっ！
ヴェーナスに
聞こえるでしょ？

……



私だけと



戦士の使命を果たすためなら
どんなことにも耐えられると
……ずっと思っていた……





.....



!!

まさかその格好で
帰ってきたの?!

そっふ



お帰り
美奈

アイ...

戦いは
どうだった?

誰かに見られたら
一体どうす…?!

馬鹿ね
こんな時間に誰も
いる訳ないじゃない

もわっ

!!!

ダメじゃないか
タバコなんか吸って

……一体何が
悪いって言うの…?

そ…それは…
美奈はまだ未成年だし
それに長生きだって
出来ないじゃないか

僕は美奈の
体の心配をして
……


つまらない事言うのね…
私に説教するつもり?

……!




長生きなんて
興味無いわ

しょっちゅう
殺されかけてるもの
……いまさっきもね



ダメだよ
そんな事言ったら
……



君はセーラー戦士の
リーダーなんだから
もっとしっかりしなきゃ
……!!

……やってるわよ
ちゃんと

戦いには真っ先に
駆け付けてるし……
好きなバレーだって
もう諦めたわ

そうよ……
浅井君のことだって
……

私にこれ以上
どうしろって言うの
………?

セーラーヴィーナスは
みんなの幸せのために
戦ってるわ

だけど
私の幸せは一体
どうしてくれるのよ
?!

私だって普通の
女の子みたいに
暮らしたいのに
………!

どんなに自分を
犠牲にして戦っても
誰も褒めてくれないの……!

美奈……

アルテミス……
あんたが
悪いのよ

また私の前に
姿を現したり
するから……!

ごめん美奈
でも分かって
……

僕たちは
この運命から
逃れられない

全ては前世から
決まっていた
ことなんだ……



じゃあ
アルテミス……

こっちの方も
前世と同じにしてみる？
……

す……

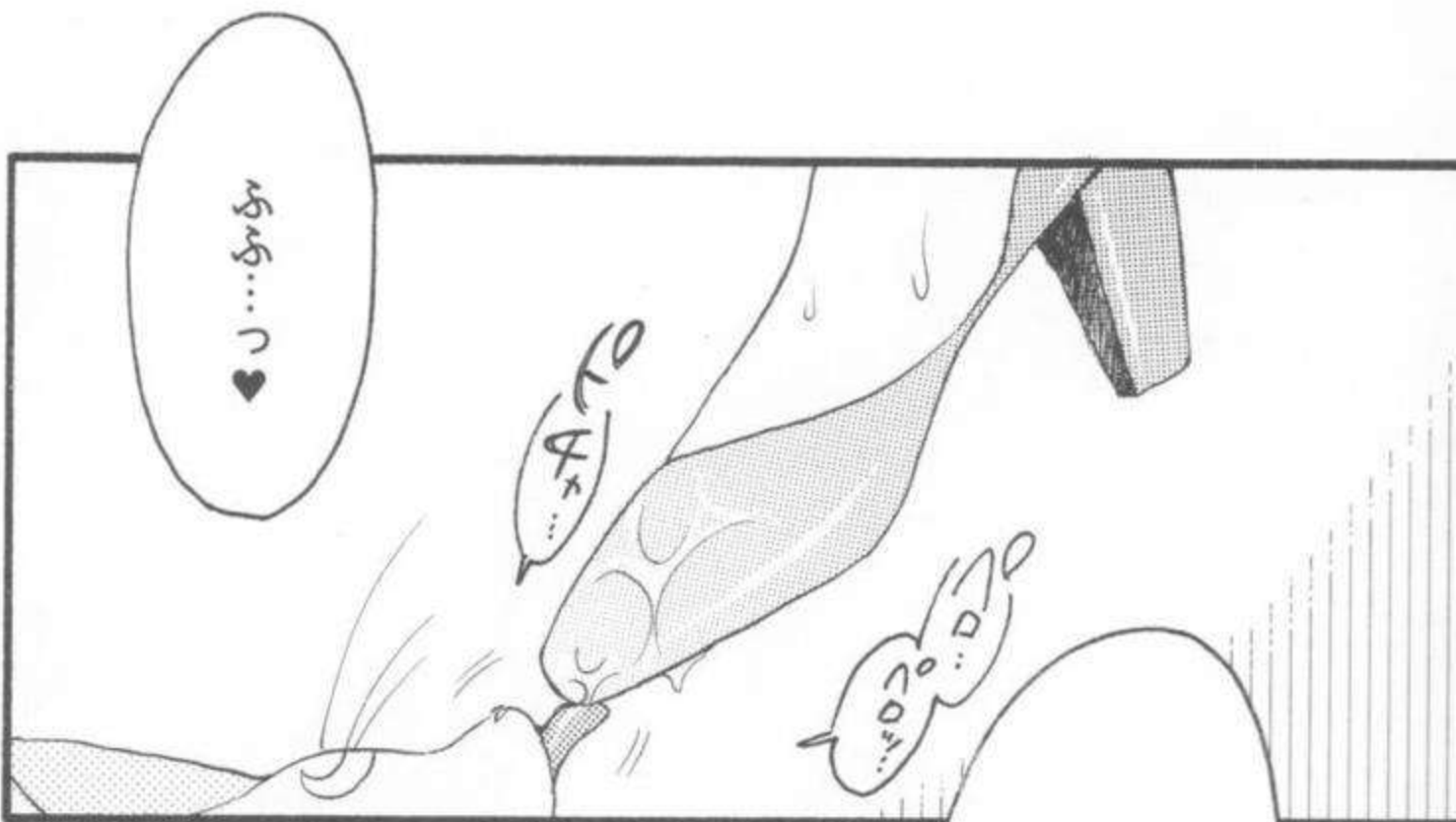
つまり……何もかも
昔と同じにしらって
事なんですよ？

そ……
それは……！

ほら…
舐めなさいよ
あの時みたいにな…

あんなみたいな
役立たず…どうせ
これ位しか出来る事
ないんだから

分かったよ…





は...は...

...

は...は...

...

...

...

...

...

んっ...

ああ...

あ...アルテミス
そこお...っ!

あ...っ♡

...

...

...

あ…♥
はあんっ…!



アッ!

ああ…っ!



アッ!
アッ!

アッ!

ダメえ…っ!
そんなに
拵げないで…っ!

やだ…
吸ってる…っ♥

わ…私
もうっ…!

ひああ…っ
気持ち…いい…っ
!いい…っ



カク
カク

あ…
あ…



あああー……っ

ガクガク……

い……
イク……

ガクガク……

ガクガク……

ガクガク……

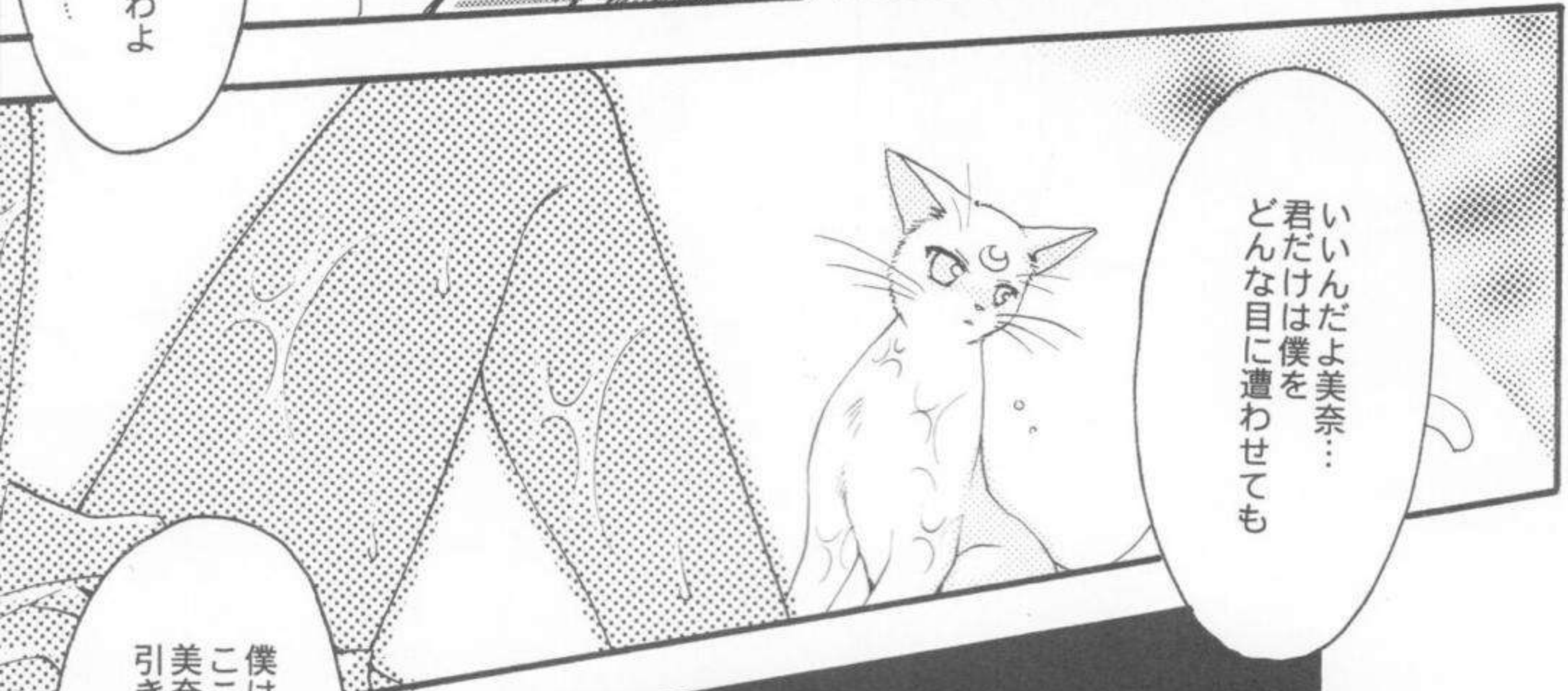
は……っ

ふあ……あ……っ



あはっ♥
酷い格好ね
アルテミス

よく似合ってるわよ



いいんだよ美奈…
君だけは僕を
どんな目に遭わせても

僕は美奈のために
ここに居るんだから…
美奈のどんな部分でも
引き受けるつもりだよ

美奈は僕の大切な人だから…
今も…昔も…

は？

「大切な人」
……

僕にはわかるよ
こんな事して喜ぶのは
本当の美奈じゃないって

何か…
辛いことが
あったんだね？

よかったら
僕に話してみてよ

……！

それとも…
僕じゃダメかな？

アルテミス
……!!

おはあ!!

!!

今日の私
何だかおかしくて…
自分でも分からないの

どうしたら
いいの…!

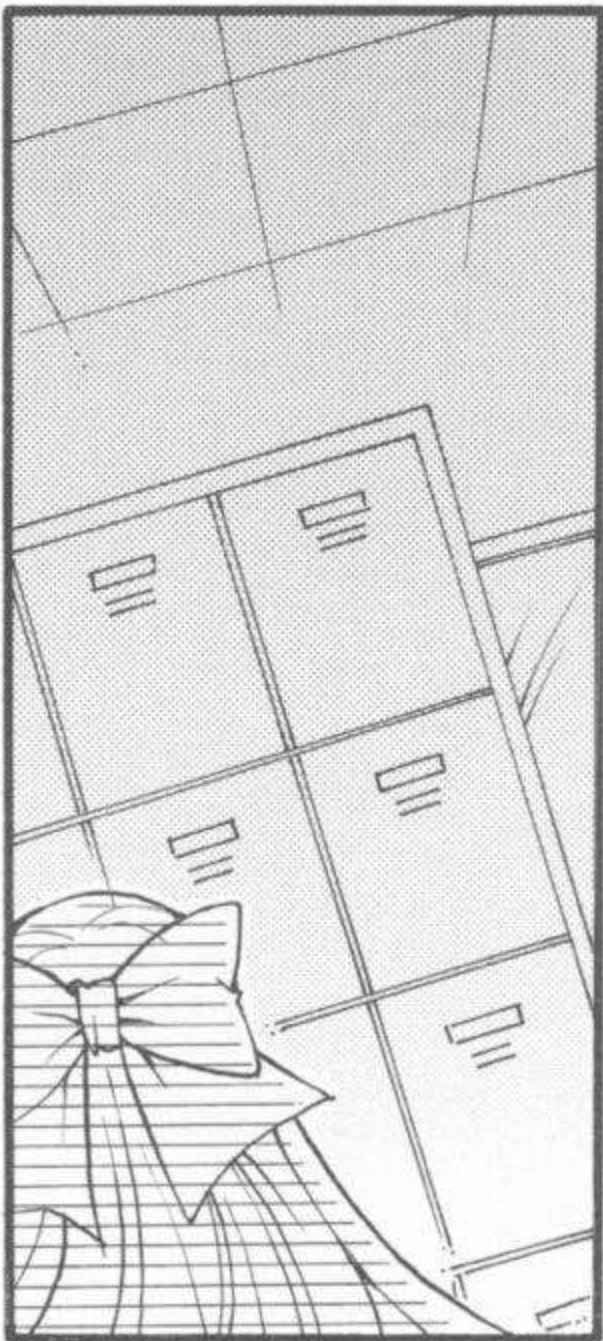
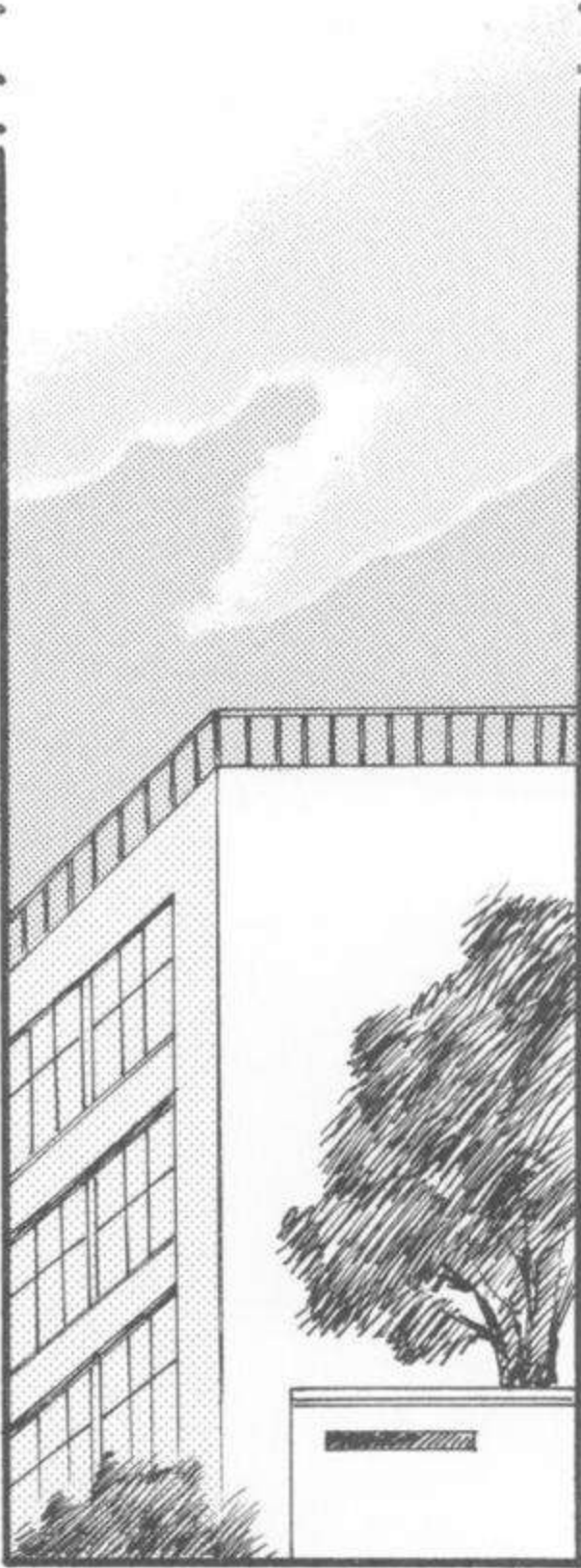
ごめんね
アルテミス
ごめんね……!

大丈夫だよ
落ち着いて…

明日になれば
きっと戻れるさ



いつもの美奈に
.....



手紙…？

「俺はこれから
お前と付き合
いたいと思う」…

一体誰から
……？

「今日の夜
体育館倉庫で待つ」

「セーラー
ヴィーナスへ」
……

!!

私の正体を
知っているの…?!

もじがこへ
……

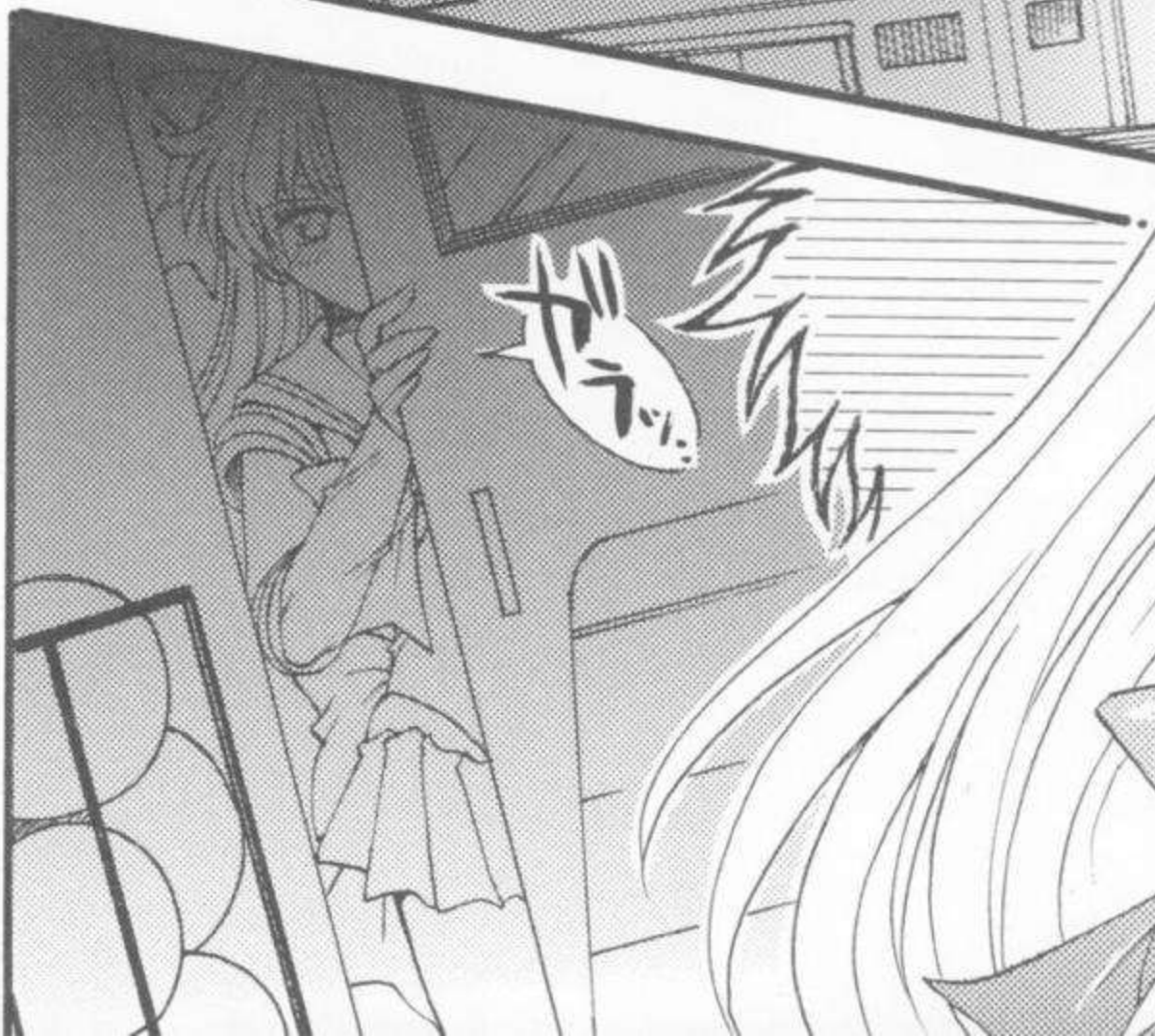
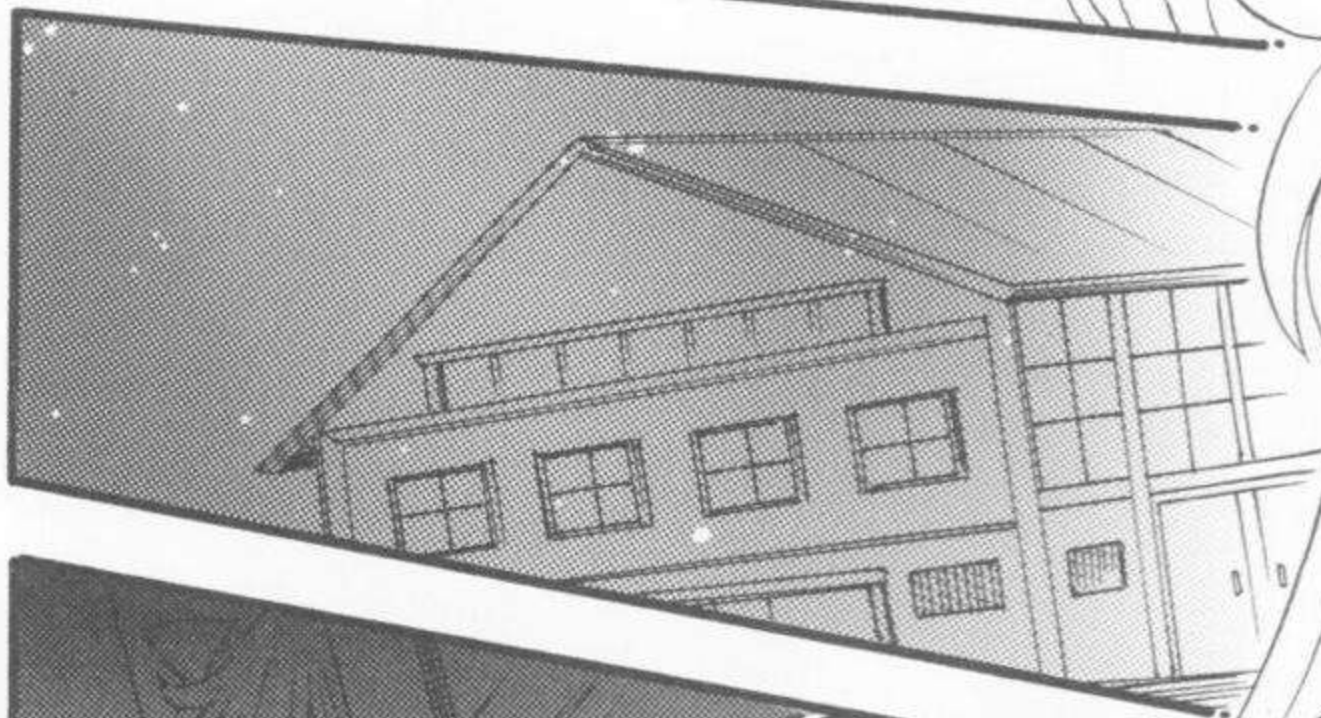
この手紙は
浅井君が…?!



どうして？
浅井君には
彼女がいるのに

俺…お前に
憧れてたんだ

とにかく…
会って話さなきゃ





…久しぶり

やっぱり
来ると思った
……

浅井君
……



また

あいつの事は
もういいんだ
…別れるから

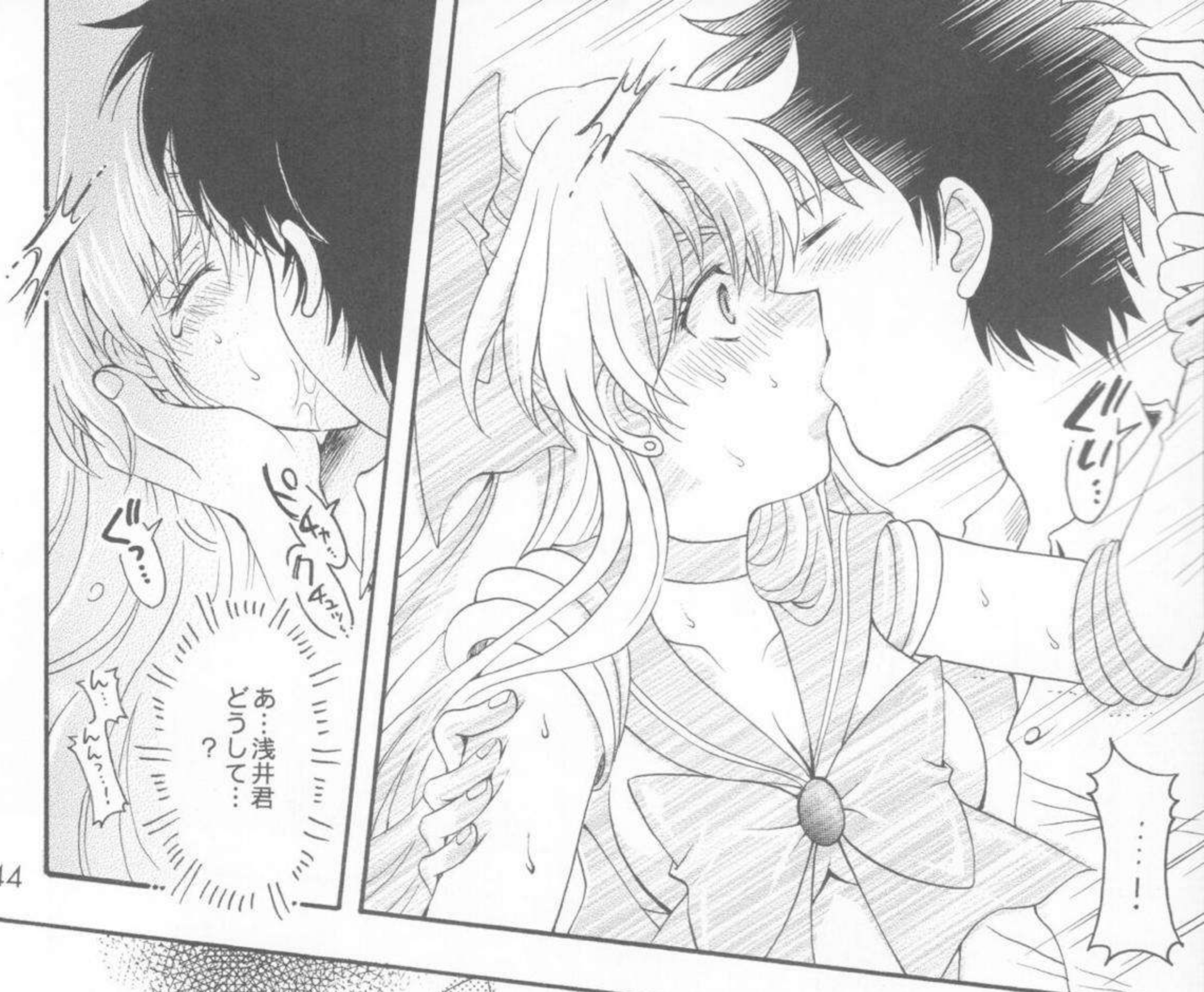
それより
……



手紙…見たわ
どういうつもりなの？
私と付き合うって…

浅井君…彼女
いるじゃない
……

きゃー！



あ…浅井君
どうして…?



お前とずっと
こうしたかったんだ
……!

やあ…っ！

ダメよ…
浅井君には
彼女がいるのに

でも…そんな事
言われると
わたし…っ！

これが…本物の
セーラーヴィーナス
………

はあ…

この服…見た目より
薄いんだな
すべすべしてる…

はあ…

あ…
撫でてる…

立って…!

ほら…こうしてみ
すげーイイよ…
全部…見えてる…

やだ…
恥ずかしい…





あ……！

ビュッ！

ビュッ！



浅井君……
気持ちいいの？

ビュッ

ビュッ

んあ……っ！
い……いいよ
その手袋……



ビュッ……

ビュッ……

ビュッ……

う……っ
あ……っ！

もっと
してあげたい……

く……ダメだ
射精する……っ！



は……

ビュッ

こ……今度は
口……してくれ……

う……うん……



ビュッ……

い……いっは
射精たね……



いいぞ...もつと
奥まで啜えろ...

すごい...
どんどん
大きくなつてく

もう...お口に
入らない...!

ホッ
ホッ
ホッ

ホッ
ホッ
ホッ



あ...!

ぶあ...っ



ホッ
ホッ
ホッ

こ...ごめんなさい
私...っ!

いいよ...もう
こっちに挿れるから
.....

いっ
いっ
いっ

はあ...

いやらしいな…
俺のをしゃぶって
こんなに濡らして…

ギョッ!

やあ…っ♥
ち…ちが…っ…

ほら…俺のを
欲しがってこんなに
ヒクついてやがる…

私…しちゃうんだ
憧れの
浅井君と…

みんなもやってる
事だもん…っ!

いけない…事だけど
こんなに
気持ちいいし…♥



す…好きいつ…
浅井君…っ!

いい…っ
気持ちいいよ
……!



ふあっ…!
ああっ…!

さ…最高だ!
本物のセーラー戦士と
やれるなんて…!



いつもこの格好で
戦っていると…
たまんねえよ…っ!

いいな?
お前は俺だけのモノだ
セーラーヴィーナス
……!

ズッ
ズッ

ククッ…あの
セーラーヴィーナスが
俺に服従して
腰を振るとはな…

はあ…

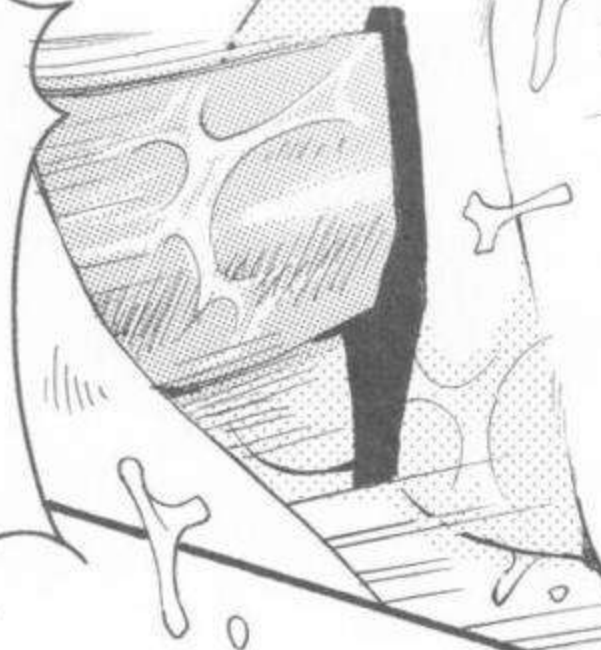
ズッ

はあ…

みんなが知ったら
何て言うだろうな？
セーラーヴィーナス…

私戦士なのに…
犯されてるのに…
…気持ちいい…

いやあつ…
そんなこと
言わないで…っ！



ぐい！

セーラーヴィーナス…
俺のモノだ……

ぎゃ……っ！
Oo

誰にも
渡さない……

お前は今日から
俺の下僕だ……
分かったな……っ！

えっ……
?!



浅井君
おねがいで……っ
美奈子……っ
呼んでえ……っ！

浅井君……？

くっ……
もう射精そうだ

お前の膣な内かに
射精すからなに
セーラーヴィーナス……っ

浅井……くん……っ
私……もうっ……っ！

ひゃ……っ！
ないやあ……あつ
なんか……くるよあ



お…俺のモノだ
セーラーヴィーナス…っ
はま…

セーラーヴィーナス…
セーラーヴィーナス…っ

お願い…っ
射精してえ…!

私の膈内に
……

お前の膈内に
射精していいのは
俺だけだからな…っ!
セーラーヴィーナス…

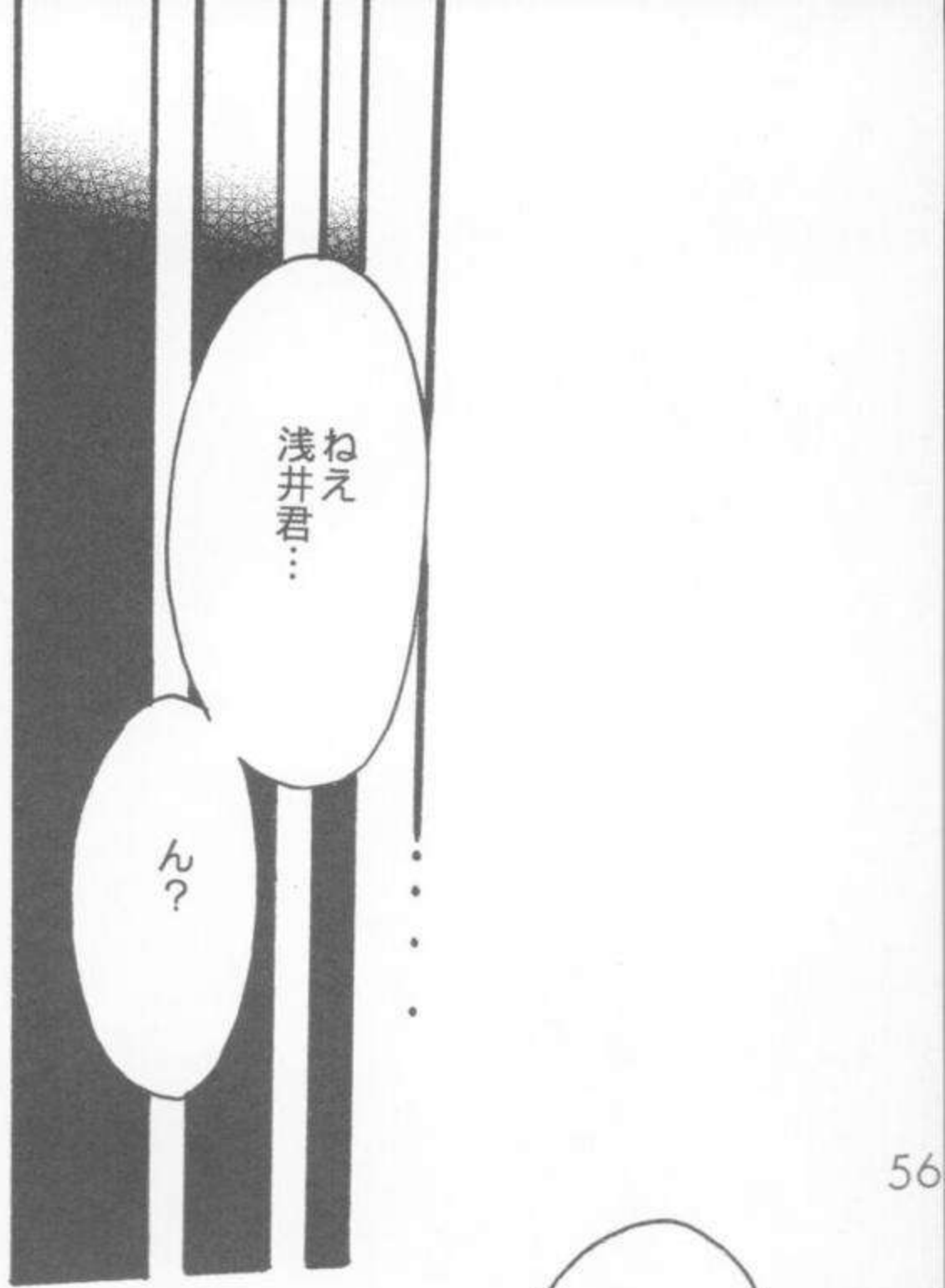




どうして...
私の名前
呼んでくれなかったの？

ハハハハハ...

私たち...
付き合おうんですよ
これから...



ねえ
浅井君...

ん？



これでお前も
俺のモノだな
ハハハ...

酷い！
浅井君はそんな人じゃ
無いって思ってたのに
.....！



は？別に
興味無えもん
愛野には



俺は
セーラーヴィーナスと
やればいいんだよ

じゃあ何？お前
素の状態で何か
特別な事出来る訳？

お前は変身できるから
存在価値がある…
違うか？

お前だって
気持ちいいとか好きとか
言ってたくせに…
なら文句ねーよな？

フゥ…

…
!!

せいぜいこれからも
その格好で
俺に尽くすんだな

なあ
セーラーヴィーナス
？

…
…



…はあ？

何言ってるんだ
あんなに
大人しかったくせに



なんならもう一回
やってやろうか？



バカにしなさい！
あんな格好を喜ばせる為
にあなたを好んでるんじ
や

二度と
私の前に
現れないで！



触らないで…！



ビクレツセント
ム!!



ひ...ひ...ひ...
ひ...ひ...ひ...



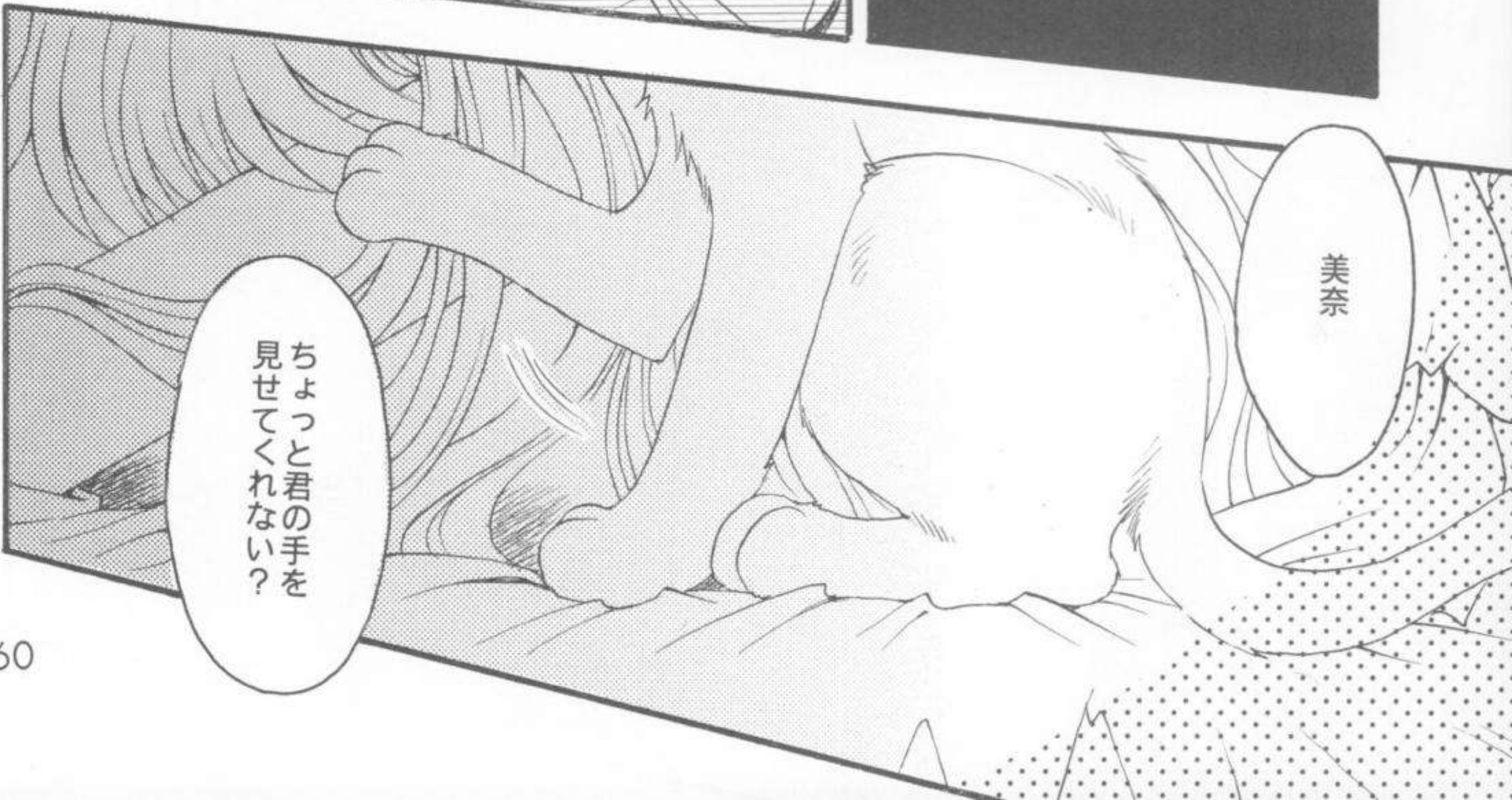
...なのかな。

結局私は
こういう運命なのね…



どうせこの先も
ずっと独り…

私には無理なんだわ
普通の女の子の
生活なんて…



美奈

ちよっと君の手を
見せてくれない？



うん…素晴らしい
生命線だ
美奈は長生きするね

結婚線は薬指に
向かってる…これは
玉の輿タイプだ



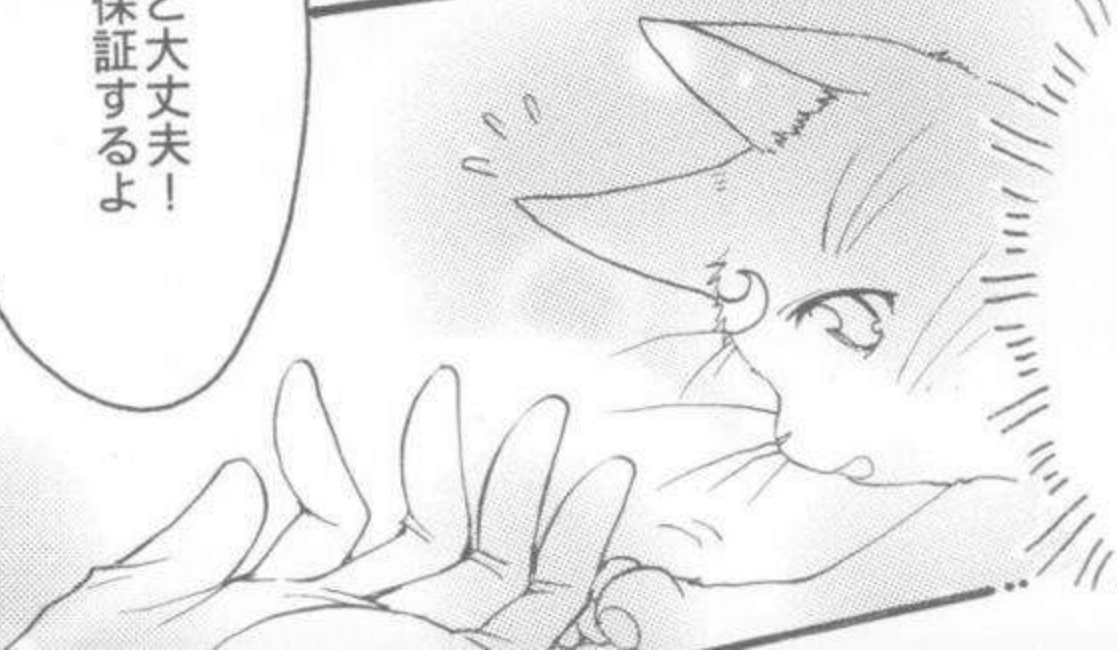
美奈は素敵な人と
巡り会って…きっと
幸せになれるよ

馬鹿ね…
手袋の上から何が
分かるっていうのよ

も…もしかしたら
それはちよつと
先の事かも知れないけど
………

きっと大丈夫！
僕が保証するよ

こんなに必死に
なっちゃって…



「美奈は僕の大切な人だから」

「今も昔も」

……

うあ……

アルテミス……

私ならもう大丈夫よ

セーラー戦士のリーダーはもっとしっかりしなきゃ……そうでしょ？

美奈……！

ヒキ……

大変よ
ヴィーナス！

敵が現れたわ！



ほ…本当にもう
大丈夫なの？



あなたがいないと
大変なの…

お願い…早く来て
ヴィーナス！



行くわよ
アルテミス！

セーラーヴィーナスにあるのは
ただ戦いの日々だけ



使命を果たすその日まで
私は戦士の道を行く

運命を分かっ
あなたと一緒に……

皆様こんにちは。愛野美奈子が病死する今日この頃、皆様如何がお過ごしでしょうか。というか実写…美奈子ちゃん死んじゃったんですが…よりによって美奈子ちゃん本出そうという時になんてことを…ミナ…恐ろしい子！（これが言いたかっただけらしい）まあ一応アニメ版の美奈子ちゃん本なんでそれほど影響は無いんですが…。なんでも実写あと二回しか残ってないそうで…。もうマーズな北川景子さんが見れないと思うと…。10近く離れてる女性にここまで入れ混んでしまうとは…レイ…恐ろしい子！（もうやめろよ）彼女のさらなる御活躍に期待いたします。さて、そんなこんなで美奈子ちゃん本です。今回この本を出すにあたり、昔のビデオ（本放送）を見直したんですが、やっぱりセーラームーンはすごいアニメだったんだなということを改めて再認識しました。今見ても本放送を見ていた当時のときめきというか、なんというかあのなんとも言えない感覚……現実と妄想の境界線が曖昧になっていくあの奇妙な感覚…あの感覚が思い出されなんだかとても切なくなってしまいます。もしあの時あんな感情を抱かなければ私は真人間として生きていけたかも知れないのに…セラムン…恐ろしい子！（もうやめませうごめんなさい…）勿論彼女達は現実に存在するわけでもないのに、なんというかもし本当に実在していたらなど馬鹿げた妄想を抱くようになって早十数年…。結局あの時のときめきが忘れられず今もへたくそな漫画を描き続けているわけですが、十数年前に覚えたあのときめきが紛れもなく今の私の原動力な訳でして…。たしかに登場人物がみな美少女でしかもとんでもないコスチュームで敵と戦うわけですから受けないわけじゃないじゃん、と言われてしまえばそれまでなんですが、ここまでときめきを維持できたのはどうもそれだけではないんじゃないかと私も歳をだいぶとってきて冷静に思うようになってきました。単なる欲の対象としてなら他にいろんなアニメや他のメディアだってあったわけですし…。作画だって（約2名除く）お話だって特に音楽だって結構しっかり作り込まれていて、最近のアニメがすっかり無くしてしまった良心があつた時代はたしかに残っていたんだと、なんかこのたかが十数年という時代の大きさを感じ、しみりとしてしまいました。あとやっぱり多感期だった時期にこの作品に出会ったからでしょうか。見ている時にその当時の自分の事を思い出すんですね。15、16、17と私の人生暗かった…って事もないのですが（笑）何か二次元の女性に入れ込んだ当時を思い出すと、みぞおちの辺りが何故かずんと重くなるのです。しかもそれが今も続いているんですから…。私もセーラー戦士の誰かと結婚できれば真人間に戻れるのでしょうか…（←無理です（きっぱり））まあ、戯れ言はこの辺にしておきます…。

というわけで、今回のお話の内容なんですが…。美奈子ちゃんは4守護神のリーダーなわけですが、他のセーラー戦士の前ではあんなキャラを作っているわけですがやはりそれだけの大役を任されるわけですから、実は冷静で理知的な女性なんではないかと私自身勝手に思い込んでおります。人前で作る明るいだけのキャラと本来の彼女の冷めた人格との間隔という観点で今回はお話を作ってみようかと思っております。と、能書きだけは立派ですが…。まあいつものような感じになると思います。わたくし幼少の頃から父親に「能書きはいいから手を動かせ！」と散々ばら怒鳴られたものですが、今も変わってないようで…。それではちょっとでもお楽しみいただければ幸いです…。

なんて数ヶ月前に書いていたんですが、前書きと後書きを両方載せるスペースがなくなってしまったので引き続き後書きになります。今回は見てのとおりかなり時間がかかってしまいました。色々身回りに変化がありまして…。良いことも良くないことも色々…というかほとんど良くないことなんですが…。この辺の言い訳はまた次の本にといった感じです。どうやら冬コミは新刊2冊態勢で望むことになりそうなので…。さてもう一冊の新刊ですが、うさぎちゃんとその弟月野進悟のお話の予定です。後半は亜美ちゃんと進悟君になる予感です。というか今決めたことなんですが…。弟なんて無茶な要求も無条件で受け入れられるという限りなくムシのいい話になる予定です（笑）まあいつものような感じですが、たまには甘ったるい話もいいかなんて思っております。宜しくお願い致します。それではまた…。次回の本でお会いできればいいんですが…。

■桜文鳥/小鳥事務所/2004, 11■

Antinomy

■発行日/2004年12月29日

■発行元/小鳥事務所

■連絡先/↓

kotorijim@hotmail.com

※禁・無断複写&転載!!※

for Adult



Anti Mommy



for Adults

ANTI-NOMY



for Adults